

## ご使用いただく前に

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

### ■梱包内容を確認して下さい

- ・ 避雷器 ..... 1 台

### ■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で確認して下さい。

### ■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

## ご注意事項

### ●設置について

- ・ 屋内でご使用下さい。
- ・ 塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納して下さい。
- ・ 振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
- ・ 周囲温度が -5 ~ +55℃ を超えるような場所、周囲湿度が 30 ~ 90 % RH を超えるような場所や結露するような場所での使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

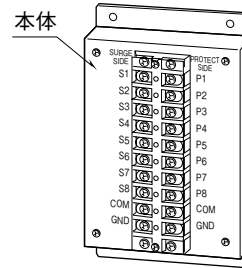
### ●耐電圧試験について

- ・ 耐電圧試験は本体を取外してから行って下さい。素子が放電開始電圧で放電して、絶縁不良の原因となります。なお、耐電圧試験後は必ず本体を元通り固定して下さい。

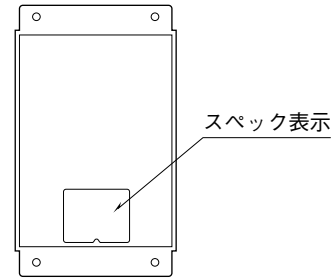
### ●その他

- ・ 緊急時のために、予備の M・RESTER をご準備いただくことをお勧めします。
- ・ 雷サージは、伝送路からばかりでなく、電源ラインからも侵入します。電源用避雷器も併せてご利用下さい。

## 各部の名称



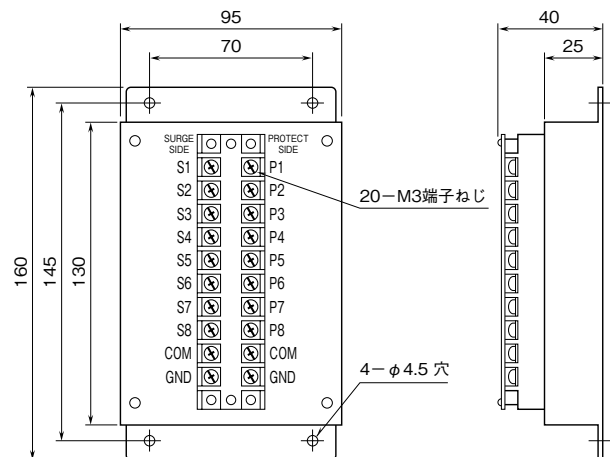
### ■背面図



## 取付方法 (単位: mm)

下図の外形寸法図を参考に行ってください。

### 外形寸法図 (単位: mm)



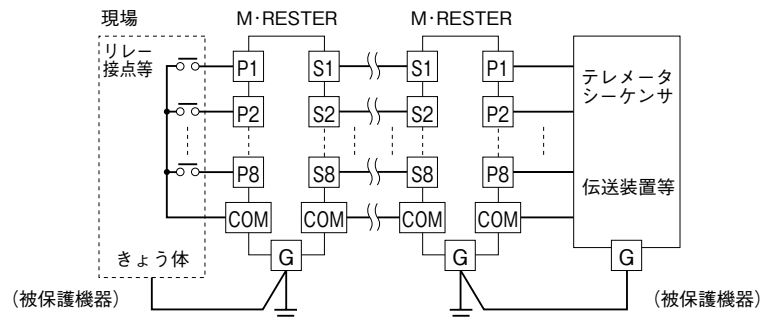
・ 密着取付可能

## 接 続

各端子の接続は下図を参考にして行って下さい。

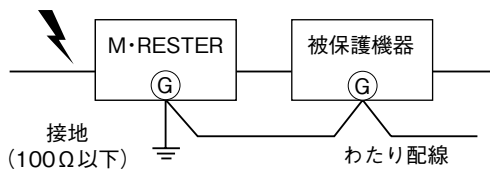
接地用端子(G)は保護される機器のG端子にわたり配線をして、必ず接地して下さい。(100 Ω以下)

### 結線要領図



注、マイナス側をCOMにして下さい。

### 必ずわたり配線を！(アースのとり方)



被保護機器のきょう体とM·RESTERの接地用端子を必ずわたり配線して下さい。  
被保護機器に接地端子がない場合は、M·RESTERのみ接地して下さい。

## 保 守

点検は、定期的に行って下さい。

雷の発生は、気付かない場合が多く、遠雷の場合でも誘導サージは発生することがあります。本体の劣化を発見するためにも、雷シーズンの前と後の年2回程度、定期的に行って下さい。また、大きな雷があったときは、その都度必ず点検して下さい。

点検は右上記の要領で行って下さい。

### ■点 検

#### 1、配線の点検

- ・結線要領図に従って結線がされていますか。
- ・接地用端子(G)は保護される機器のきょう体に接続されていますか。
- ・接地用端子(G)は接地されていますか。

#### 2、素子の点検

本体は下記の方法を用いて、簡易的に点検することができます。

- ・点検を行うときは、M·RESTERに接続されている線を全て外してから行って下さい。
- ・テストの高抵抗レンジにより、次の各端子間の抵抗値を測定し、導通がないことを確認して下さい。  
(P1)・(P2)・(P3)・(P4)・(P5)・(P6)・(P7)・(P8)－(COM)、(COM)－(G)  
(テストの指示が10 M Ω以上になります。)  
ただし、(P1)・(P2)・(P3)・(P4)・(P5)・(P6)・(P7)・(P8)－(COM)端子の測定時は(P1)・(P2)・(P3)・(P4)・(P5)・(P6)・(P7)・(P8)端子にプラス電圧がかかる方向でテストを接続して下さい。  
また、上記の各端子間を500 V DC 1000 M Ωメガーで測定し、各端子間が放電することを確認して下さい。(メガーの指示が20 M Ω以下になります。)
- ・上記の点検にて異常が認められた場合には、本体が劣化していますので、交換して下さい。

## 保 証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後3年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。

ただし、放電耐量以上のサージによる故障は、保証範囲外です。